

竹の伐採や根の除去に
取り組む学生ら＝沼津
市の灰塚川周辺

三島市境の止水域「灰塚川」

沼津市側整備に本格着手

GW三島 植生再現目指す

沼津、三島の市境にある止水域「松毛川（沼津市では灰塚川）」の森づくりに取り組むNPO法人グラウンドワーク（GW）三島が、2016年度から沼津市側の整備に本格的に乗り出した。繁茂した竹の伐採や植林を通じ、河畔林の豊かな植生の再現を目指す。

（東部総局・中村綾子）



上空から見た止水域。川の
内側部分が沼津市
2013年

止水域は昭和初期の堤
防工事で狩野川本川から

切り離されて形成された。約6分の河畔林は放置竹林の拡大やごみの流入で環境が悪化し、GW三島が05年から「松毛川千年の森づくり」と題して風や光を遮っていた竹の伐採・チップ化と植林を続けてきた。

三島市側の約1・4キロ区間の整備がおおむね完了し、沼津市側では16年10月、大平地区の住民の協力を得て活動が始まった。GW三島の渡辺豊博専務理事が特任教授を務める都留文科大（山梨県）の学生らも現地を訪れ、竹の伐採や清掃に取り組んでいる。

事業は沼津市の「民間支援まちづくりファンド事業」にも採択され、今後、植樹地の造成や自然観察会を予定している。活動に参加する同大4年の太田裕也さん（22）は「野鳥や昆虫のすみかとしても大切な場所。狩野川の昔ながらの風景を残していきたい」と話した。